

第3次医療革命：歴史の中の今日の政治的意義

(2004年)

長い間、病院の医師人事権は大学医局にありました。たとえ県立や市立病院でも、自治体は医師を手持ちしているわけではないので、大学派遣人事を拒否するということは医師を確保できないというに等しいことでした。ましてや国立大学からの派遣となるとなおさらでした。たとえば山間僻地を有するような自治体は大変苦勞して、医師を圏内にとどめようとして、資質能力のいかに関わらず医局の要求ならばよほどのことでない限り受け入れてきました。

一方、医師にとって見れば、医局に人事権があるということは医局に所属する以外には病院へ就職することができない、ということです。大学では「研究」というものが唯一の昇進出世の根拠ですから、医局員は大学での昇進出世をもとめる者の「研究」作業の手勢でした。いっぽう医局員も当り前のようにそれによって博士号を手にしてきました。その者たちのその後の就職先として、また大学では得られない「研究」材料の出所として、さらに当然のこととして教授昇進から外れた者の天下り横滑り先として、医局は関連病院の人事権を手放すことはできません。この経路で、博士号取得は入局の通過儀礼として運用されました。その経緯を自覚せず嬉々として作業従事した者の、医局と博士号を授与した教授に対する忠誠心はほとんど盲目的です。かくして関連病院は大学から天下り横滑りした貴族の荘園となりました。

1970年代の一県一医大制による医師増加と医師の作業労働者化に加うるに、経済成長にともなう病院施設設備の充実につれて、病院医師の診療作業能力は格段に向上しました。荒地が開墾されて農地となり、技術革新で収穫が激増したのです。荘園では片隅に私営田領主が勃興してきました。「研究」作業志向の大学王朝と荘園貴族には、それを支配し得る武力（臨床力）がないことが露わになっていました。専門医資格が、武力の裏づけがない博士号の価値に取って代わってきました。つまり作業員医師の就職をめぐる状況が流動化しつつあったのです。そこへもって2004年からの初期研修必修とマッチング制度によって、若者が自分で病院をえらぶことが可能となり、そしてえらばざるを得なくなりました。王朝支配の人事が一挙にくずれました。まして若者は何事も自分の気ままを許されてきた豊かな時代の申し子です。さらに厚労省は医局の人材斡旋派遣業は触法であるとの見解から、大学が労働者である医師に赴任を強要できないと医局人事に釘を刺し、若者の気ままを後押しすることとなりました。没落しつつある大学王朝にかわって、荘園は土豪が支配するところとなりました。これがこんにちです。

しかし、この土豪有力病院は無制限に膨張できないので、すぐにも困難に直面しま

す。じきに初期研修医が病院にとっては過剰な要員として放出のやむなきにいたり失業者を産出することになるからです。このとき、病院が取る道に二つの方向が考えられます。自給自足する規模を造ることと、失業者を他へ転出させること、です。

自給自足は一病院の規模では不可能です。経営母体として大規模な基盤を持つときにだけ可能な体制を造ることができます。全国に組織を持つ大きな事業体がこの方向を模索するかもしれません。一種の独立連合組織体ですから、そこへの入出国管理権を保有しようとするのは当然のことで、自己組織の統一後期研修カリキュラムはその管理法です。いわば新卒学生を入社させてより高く再教育する先進大企業と同じ仕組みです。孤立大病院もそのうち連帯を模索するかもしれません。過剰要員を転出させる先は人員の枯渇でただでさえ要員を求めている大学医局がもっとも容易です。医師の供給需給にかかわる大学医局と有力大規模病院の関係はここにおいて逆転します。

中小の孤立病院では自己の内部で問題を解決できません。自己の外に解決をもとめなければなりません。ここでは、医師の供給需給をつかさどる機構として大学医局（ないしは民間医局）に頼るほかには方法がないように見えます。いまのところ、弱体病院はともかくも需給を渴望していますから、医局を経由して人員を与えられれば一時はしのげそうです。しかし、有力病院から過剰要員として医局に供給される人材は、すでに病院内選別を経ています。その要員の資質は高いとは限りませんから、日常診療を外部からの要請どおりに応えることが難しく、安易な供給に依存しては早晚行き詰まるかもしれません。そして厚労省が容認した弱体病院の淘汰廃業につながるかも知れず、この先厚労省の狙いのように拠点病院＋周辺クリニックが自然に形成されて行く可能性が否めません。

後期研修制度の意味はいまや政治的です。こんにちはようやくにして医療世界が王朝制から中世に入ろうとしている変革期です。大学王朝が病院を支配下にしてきたことと、病院が診療を目的として自己完結体であろうとすることは、その中にいる医師にとっては統制体制であることに変わりないように見えますが、政治的意味が決定的に違っています。しかし、あらたな歴史の担い手である土豪病院は歴史的 position をまだ十分には自覚していないようなので、試行錯誤がしばらくはつづくと思われます。本邦において変革は世代の交代によってのみ成立しました。医療社会の指導的位置にこんにちのマッチング世代が登場してきたときに、あたらしい安定した時代が到来すると思われます。かれら若いマッチング世代に、あたらしい時代の文化の担い手となるべき気概を涵養することが、革新的前世代の歴史的責務でしょう。それにしても王朝の外の社会土壌はこの方向へ進む以外に道がないほどに豊穡になりました。

(2004)